



「これからも静物を中心に描き続けたい」と菅野さん（後ろは初の佳作作品「午睡の夢」）

黒のモチーフが特徴

シャープな表現、独自の境地

本格的に水彩を始めて約二十年。夫の勤務で小樽に転居した際、同市在住の画家森本三郎氏に師事したのがその第一歩だった。平成五年、郷里釧路に戻ってからは一人画業に打ち込み、七年と九年に道展佳作、昨年は道展新会友に。静物画に水彩特有の柔らかな表現

とは一線を画す、シャープな独自の境地を切り開いている。道女子短大で美術を専攻した後、藤女子短大國文科に進学。一時は離れていた絵だったが、「主婦の趣味に」と気軽な気持ちで師と出会ったのが転機となった。「絵を描くのは自分の内

面と対峙（じ）すること」と菅野さんはいう。抱く不安や将来の思い、孤独感、喜びなど、この思いを絵に投影していく。好んで描く一對の黒人の顔の彫像は、アフリカに行った義弟から絵の題材にと贈られたものだった。「真っ黒な像。どう描こうか悩みました。でも義弟の思いを何とか絵にしたいと」。それが「黒」との出合いだった。

「I for you」で道展新会友に。いずれも黒の彫像を題材としたものだった。

水彩画

くみこ

菅野企見子さん（五〇）

（釧路市桜ヶ岡二の二九）

「体力に自信がないのでこれから静物を中心に、自分と向き合いながら描き続けたい」と話している。